

講義概要

SYLLABUS

令和5年度

1年後期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

講義名	解剖学Ⅱ		
講師	伊藤望美 日良葉子		
学年・期	1年後期. 2単位. 60時間 (講義)		
講義目標	<p>消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系に所属する器官の所在・形状・構造上の特徴について理解する。循環器系では心臓の構造、全身の動静脈の走行、リンパ管系について理解する。体性感覚をつかさどる外皮、特殊感覚をつかさどる嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器についても理解する。</p>		
授業計画	第1回	循環器系・・・	総論・心臓の構造、肺循環 (伊藤)
	第2回		体循環に関する動静脈 (伊藤)
	第3回		体循環に関する動静脈 (伊藤)
	第4回		体循環に関する動静脈 (伊藤)
	第5回		体循環に関する動静脈 (伊藤)
	第6回		リンパ管・リンパ性器官 (リンパ節・脾臓) (伊藤)
	第7回		リンパ管・リンパ性器官 (リンパ節・脾臓) (伊藤)
	第8回	消化器系・・・	口腔・咽頭・食道・胃 (伊藤)
	第9回		口腔・咽頭・食道・胃 (伊藤)
	第10回		小腸大腸・肛門管 (伊藤)
	第11回		小腸大腸・肛門管 (伊藤)
	第12回		大唾液腺・肝臓・膵臓 (伊藤)
	第13回		大唾液腺・肝臓・膵臓 (伊藤)
	第14回	呼吸器系・・・	鼻腔・副鼻腔・喉頭 (日良)
	第15回		鼻腔・副鼻腔・喉頭 (日良)
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：日良		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」(医学書院)		
参考図書 その他	<p>「めくって学ぶアトミーカードThe Muscle筋肉編改訂版」(トライワークス)</p> <p>「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」(南江堂)</p>		

講義名	解剖学Ⅱ		
講師	伊藤望美 日良葉子		
学年・期	1年後期. 2単位. 60時間 (講義)		
講義目標	<p>消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系に所属する器官の所在・形状・構造上の特徴について理解する。循環器系では心臓の構造、全身の動静脈の走行、リンパ管系について理解する。体性感覚をつかさどる外皮、特殊感覚をつかさどる嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器についても理解する。</p>		
授業計画	第16回	呼吸器系・・・	気管・気管支・肺・胸膜・縦隔 (日良)
	第17回		気管・気管支・肺・胸膜・縦隔 (日良)
	第18回	泌尿器系・・・	腎臓・尿路 (日良)
	第19回		腎臓・尿路 (日良)
	第20回		腎臓・尿路 (日良)
	第21回	生殖器系・・・	男性生殖器・女性生殖器 (日良)
	第22回		男性生殖器・女性生殖器 (日良)
	第23回	感覚器・・・	外皮・嗅覚器・味覚器 (日良)
	第24回		外皮・嗅覚器・味覚器 (日良)
	第25回		平衡感覚器 (日良)
	第26回		平衡感覚器 (日良)
	第27回		視覚器 (眼球と副眼球) (日良)
	第28回		視覚器 (眼球と副眼球) (日良)
	第29回	内分泌系・・・	ホルモンと関連物質 (日良)
	第30回		ホルモンと関連物質 (日良)
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：日良		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」(医学書院)		
参考図書 その他	<p>「めくって学ぶアトミーカードThe Muscle筋肉編改訂版」(トライワークス)</p> <p>「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」(南江堂)</p>		

講義名 解剖学演習

講師 日良 葉子 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学演習を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 解剖学の知識をもとに体表からの触知を行えることを目標とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	上肢の筋Ⅰ（肩甲骨周囲の筋）
第3回	上肢の筋Ⅱ（上腕前面の筋）
第4回	上肢の筋Ⅲ（上腕後面の筋）
第5回	上肢の筋Ⅳ（前腕後面の筋）
第6回	上肢の筋Ⅴ（前腕前面の筋）
第7回	下肢の筋Ⅰ（殿部の筋）
第8回	下肢の筋Ⅱ（大腿前面の筋）
第9回	下肢の筋Ⅲ（大腿内側の筋）
第10回	下肢の筋Ⅳ（大腿後面の筋）
第11回	下肢の筋Ⅴ（下腿前面の筋）
第12回	下肢の筋Ⅵ（下腿後面の筋）
第13回	体幹の筋Ⅰ（頸部の筋）
第14回	体幹の筋Ⅱ（体幹後面の筋）
第15回	体幹の筋Ⅲ（体幹前面の筋）

履修上の注意 トレパン、半袖など体表部の触知のしやすい格好とする。

成績評価 実技試験、期末試験を総合的に判断する。単位認定者：日良

テキスト 「運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）改訂第2版」（メジカルビュー社）
「運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）改訂第2版」（メジカルビュー社）

参考図書 「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）
その他 「ネッター解剖学アトラス」（南江堂）

講義名 生理学Ⅱ

講師 菅野 武史

学年・期 1年後期、2単位、60時間（講義）

講義目標 生理学Ⅱにおいては、生物（動物・植物）共通にみられる機能について理解する。

授業計画

第1回	自律神経系の働き
第2回	自律神経系の働き、血液組織
第3回	血しょう、赤血球の役割
第4回	赤血球の新生・破壊
第5回	白血球の分類と役割
第6回	自然免疫と獲得免疫
第7回	血液型と一次止血
第8回	一次・二次止血、線溶
第9回	心臓・興奮伝導系
第10回	ペースメーカー電位、心電図
第11回	心周期
第12回	心周期、循環系導入部
第13回	動脈循環・静脈循環
第14回	微小循環
第15回	血管作動物質

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：菅野

テキスト 「生理学テキスト 第9版」（文光堂）

参考図書
その他

講義名 生理学Ⅱ

講師 菅野 武史

学年・期 1年後期、2単位、60時間（講義）

講義目標 生理学Ⅱにおいては、生物（動物・植物）共通にみられる機能について理解する。

授業計画

第16回	圧受容器反射、特殊部位の循環
第17回	呼吸筋の収縮と吸息・呼息
第18回	呼吸力学と肺疾患
第19回	ガス交換
第20回	呼吸運動の調節
第21回	消化と吸収（口腔～胃）
第22回	消化と吸収（十二指腸～大腸）
第23回	内分泌系の概要
第24回	ホルモン（視床下部～下垂体前葉）
第25回	ホルモン（下垂体後葉、副腎髄質）
第26回	ホルモン（副腎皮質、甲状腺）
第27回	ホルモン（膵臓）
第28回	ホルモン（上皮小体、性腺）、腎機能
第29回	糸球体ろ過、再吸収
第30回	再吸収と分泌、酸塩基平衡

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：菅野

テキスト 「生理学テキスト 第9版」（文光堂）

参考図書
その他

講義名	生理学演習		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	前田 剛伸	病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
	藤原 聡	病院で理学療法士として約17年の勤務経験がある。その経験を活かして、生理学演習を講義する。	
学年・期	1年後期、1単位、30時間（演習）		
講義目標	各種機器を用いて生体反応をみるなかで生体の各機能について理解する。		
授業計画	第1回	筋機能解析	（前田）
	第2回	筋機能解析	（前田）
	第3回	誘発筋電図（神経伝導検査）	（嘉戸）
	第4回	誘発筋電図（H波、F波）	（嘉戸）
	第5回	誘発筋電図（SP、LLR、SEP）	（嘉戸）
	第6回	呼気ガス分析	（藤原）
	第7回	呼気ガス分析	（藤原）
	第8回	筋電図解析（表面筋電図とは）	（高橋）
	第9回	筋電図解析（計測方法、注意点）	（高橋）
	第10回	筋電図解析（立ち上がり動作の筋電図計測）	（高橋）
	第11回	筋電図解析（歩行動作の筋電図計測）	（高橋）
	第12回	重心動揺分析（検査方法、測定項目）	（高橋）
	第13回	重心動揺分析（データ計測、ディスカッション）	（高橋）
	第14回	三次元動作解析（計測方法、測定項目）	（高橋）
	第15回	三次元動作解析（データ計測、ディスカッション）	（高橋）
履修上の注意			
成績評価	出席状況、授業態度により判断する。レポートなどの提出物を課した場合は、その成果も成績に加味する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「生理学テキスト 第9版」（文光堂） 「基礎運動学 第6版補訂」（医歯薬出版）		
参考図書 その他			

講義名	運動学		
講師	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。	
	楠 貴光	病院で理学療法士として約10年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	運動器を中心に人体の構造と機能について理解する。		
授業計画	第1回	生体力学の基礎	（高橋）
	第2回	生体の構造と機能	（高橋）
	第3回	運動の方向・軸・関節構造	（高橋）
	第4回	運動の方向・軸・関節構造	（高橋）
	第5回	頭頸部の運動	（楠）
	第6回	顔面の運動	（楠）
	第7回	摂食嚥下に関与する運動	（楠）
	第8回	胸椎部の運動	（楠）
	第9回	腰椎部の運動	（楠）
	第10回	呼吸時の胸郭の運動	（楠）
	第11回	肩甲帯の運動	（楠）
	第12回	肩関節の運動	（楠）
	第13回	肘関節の運動	（楠）
	第14回	前腕の運動	（楠）
	第15回	手関節の運動	（楠）
履修上の注意	講義内容は実技の際は、運動可能な服装で受講すること（事前に連絡する） 講義内容により教室が変更する可能性がある（各自週間時間割で確認すること）		
成績評価	期末試験、授業態度を総合的に判断する。単位認定者：高橋		
テキスト	「基礎運動学 第6版補訂」（医歯薬出版） 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」（医歯薬出版）		
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「The Center of The Body—体幹機能の謎を探る—」（アイベック）		

講義名	運動学		
講師	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。	
	楠 貴光	病院で理学療法士として約10年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動学を講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	運動器を中心に人体の構造と機能について理解する。		
授業計画	第16回	手指の運動	（楠）
	第17回	股関節の運動	（高橋）
	第18回	股関節の運動	（高橋）
	第19回	膝関節の運動	（高橋）
	第20回	膝関節の運動	（高橋）
	第21回	足関節、足部の運動	（高橋）
	第22回	足関節、足部の運動	（高橋）
	第23回	姿勢（重心、支持基底面、安定性の要素）	（高橋）
	第24回	姿勢（姿勢の名称、運動学的特徴）	（高橋）
	第25回	基本動作を構成する関節運動・筋活動	（高橋）
	第26回	基本動作を構成する関節運動・筋活動	（高橋）
	第27回	基本動作を構成する関節運動・筋活動	（高橋）
	第28回	基本動作を構成する関節運動・筋活動	（高橋）
	第29回	運動学習（記憶、学習の段階）	（高橋）
	第30回	運動学習（練習、動機づけ、フィードバック）	（高橋）
履修上の注意	講義内容は実技の際は、運動可能な服装で受講すること（事前に連絡する） 講義内容により教室が変更する可能性がある（各自週間時間割で確認すること）		
成績評価	期末試験、授業態度を総合的に判断する。単位認定者：高橋		
テキスト	「基礎運動学 第6版補訂」（医歯薬出版） 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」（医歯薬出版）		
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「The Center of The Body—体幹機能の謎を探る—」（アイベック）		

講義名 人間発達学

講師 大沼 俊博 病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、人間発達学を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 医療・保健・福祉の対象は人間であり、人間が生まれて高齢者になるまで年齢幅、身体・精神など発達の相違がある。効果的な理学療法を実施するためには人間の発達過程を十分理解し、対象者の発達に応じた的確なアプローチをとることが重要である。人間の発達の観点から人間を理解する。

授業計画

第1回	人体（一般）発達学
第2回	人体（一般）発達学 胚子期～胎児期（一部）
第3回	人体発生学：局所発生・脊柱・脊髄
第4回	運動発達：背臥位・腹臥位の発達（0ヵ月～3ヵ月）
第5回	背臥位・腹臥位の発達（3ヵ月～6ヵ月）
第6回	背臥位・腹臥位の発達（3ヵ月～6ヵ月）
第7回	腹臥位の発達（3ヵ月～6ヶ月）
第8回	腹臥位の発達（6ヵ月～9ヶ月）
第9回	座位の発達（0ヵ月～6ヵ月）
第10回	座位の発達（7ヵ月～12ヵ月）
第11回	立位の発達
第12回	原始反射について
第13回	原始反射について
第14回	小児期・青年期・成人期・老年期における発達過程について
第15回	発達過程における性差について

履修上の注意 実習可能な服装を用意すること。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：大沼

テキスト 「写真で見る乳児の運動発達一生後10日から12ヵ月まで」（共同医書）
「運動発達と反射 反射検査の手技と評価」（医歯薬出版）

参考図書
その他

講義名 病理学

講師 岩井 重寿

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 病理学は疾病の本態を主に形態学的観点から学ぶ学問である。疾病は病因、発生機序、経過および予後から成り立っている。授業では、各種の疾病を理解するうえでの細胞・組織単位での基本的な変化（病理学総論）、さらに各臓器や器官に発生する固有な疾病（病理学各論）を学ぶことで個々の疾病概論を理解する。これにより、1) 疾病の成り立ちが理解できる、2) 疾病の身体におよぼす影響が理解できる、3) 疾病の特徴を説明できる。

授業計画

第1回	病理学概論、病因論（内因と外因）、遺伝と先天異常
第2回	物質代謝異常、細胞障害（変形、萎縮、壊死）
第3回	アポトーシス、修復と再生
第4回	循環障害
第5回	炎症、感染症
第6回	免疫病理学
第7回	腫瘍①
第8回	腫瘍②
第9回	各論・・・循環器系
第10回	各論・・・呼吸器系
第11回	各論・・・消化器系
第12回	各論・・・造血器系
第13回	各論・・・泌尿器系・生殖器系
第14回	各論・・・内分泌系
第15回	各論・・・神経系・運動器系

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：岩井

テキスト 「新訂版クイックマスター病理学 第2版」（サイオ出版）

参考図書
その他

講義名 内科学 I

講師 主田 英之

学年・期 1年後期, 1単位, 30時間 (講義)

講義目標 理学療法に必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療の理解と、疾患の病態、症状と理学療法の関係について理解する。

授業計画

第1回	内科学概論
第2回	内科的診断学 (診断の進め方・臨床検査とのデータの解釈)
第3回	症候学①
第4回	症候学②
第5回	循環器系疾患 (総論①)
第6回	循環器系疾患 (総論②)
第7回	循環器系疾患 (症候・検査)
第8回	循環器系疾患 (各論①)
第9回	循環器系疾患 (各論②)
第10回	呼吸器系疾患 (総論① 構造と機能・病態生理)
第11回	呼吸器系疾患 (総論② 検査・診断・治療)
第12回	呼吸器系疾患 (各論①)
第13回	呼吸器系疾患 (各論②)
第14回	呼吸器系疾患 (各論③)
第15回	呼吸器系疾患 (呼吸器疾患のリハビリテーション)

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：主田

テキスト 「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 内科学 第4版」 (医学書院)

参考図書
その他

講義名 整形外科学 I

講師 前田 章 病院で医師として約41年の勤務経験がある。その経験を活かして、整形外科学 I を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 整形外科の基礎科学を理解し、続いて最新の治療について理解する。

授業計画

第1回	整形外科解説、整形外科基礎科学・・・骨の構造、機能と病態生理
第2回	整形外科基礎科学・・・関節・軟骨・神経の構造、機能と病態生理
第3回	整形外科科学総論・・・診断の基本と主訴、現症
第4回	整形外科科学総論・・・整形外科的検査法
第5回	整形外科的治療・・・保存療法
第6回	整形外科的治療・・・手術療法
第7回	整形外科疾患総論・・・軟部組織・骨・関節の感染症
第8回	整形外科疾患総論・・・慢性関節リウマチと類似疾患
第9回	整形外科疾患総論・・・慢性関節疾患（退行性、代謝性）と四肢循環障害
第10回	整形外科疾患総論・・・先天性骨系統疾患と先天異常症候群
第11回	整形外科疾患総論・・・代謝・内分泌疾患
第12回	整形外科疾患総論・・・骨・軟部腫瘍
第13回	整形外科疾患総論・・・神経疾患・筋疾患
第14回	まとめ①
第15回	まとめ②

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

テキスト 「標準整形外科学 第15版」（医学書院）

参考図書
その他

講義名 神経内科学 I

講師 中森 友啓 病院で理学療法士としてとして約6年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学 I を講義する。
清原 克哲 病院で理学療法士としてとして約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学 I を講義する。
木下 晃紀 病院で理学療法士としてとして約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、神経内科学 I を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 神経内科領域の各疾患について理解する。はじめに神経解剖学・神経生理学を講義し、神経内科疾患各論を講義する。

授業計画	第1回	神経系の構造と機能	(清原)
	第2回	運動麻痺	(清原)
	第3回	運動失調	(清原)
	第4回	錐体外路徴候	(清原)
	第5回	姿勢反射障害と姿勢異常、歩行障害	(清原)
	第6回	痙攣とミオクローヌス、筋萎縮	(木下)
	第7回	感覚障害、疼痛	(木下)
	第8回	脳神経障害	(木下)
	第9回	構音・嚥下障害	(木下)
	第10回	意識障害、睡眠障害	(木下)
	第11回	精神症状	(中森)
	第12回	高次脳機能障害	(中森)
	第13回	自律神経症候	(中森)
	第14回	神経学的診断	(中森)
	第15回	神経学的検査法	(中森)

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：中森

テキスト 「リハビリテーションのための神経内科学 第2版」 (医歯薬出版)

参考図書
その他

講義名	救急救命医学・予防学		
講師	藤原 聡	病院で理学療法士として約17年の勤務経験がある。その経験を活かして、予防学を講義する。	
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、救急救命医学を講義する。	
学年・期	1年後期。1単位。30時間（講義）		
講義目標	国民がいつまでも「参加」続けられるために、障害を引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の予防、再発予防の知識と技術を学ぶ。 緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方や心肺蘇生と応急処置について学ぶ。		
授業計画	第1回	予防理学療法学の概論について	（藤原）
	第2回	予防理学療法学のための理解①	（藤原）
	第3回	予防理学療法学のための理解②	（藤原）
	第4回	予防理学療法の実際① <small>（理学療法士の役割、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム）</small>	（藤原）
	第5回	予防理学療法の実際②（廃用症候群）	（藤原）
	第6回	予防理学療法の実際③（廃用症候群）	（藤原）
	第7回	予防理学療法の実際④（認知症の予防）	（藤原）
	第8回	予防理学療法の実際⑤（労働災害）	（藤原）
	第9回	予防理学療法の実際⑥（再発予防）	（藤原）
	第10回	予防理学療法の実際⑦（再発予防）	（藤原）
	第11回	救急救命医学概論①	（黒部）
	第12回	救急救命医学概論②	（黒部）
	第13回	救急救命の実践①	（黒部）
	第14回	救急救命の実践②	（黒部）
	第15回	応急処置	（黒部）
履修上の注意	講義内容により講義教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること。 講義内容が実技の際は、運動可能な服装で受講すること。（事前に連絡する）		
成績評価	期末試験と実技試験により判断する。単位認定者：藤原		
テキスト	「予防理学療法学要論」（医歯薬出版）		
参考図書 その他			

講義名 リハビリテーション医学

講師 前田 剛伸 病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、リハビリテーション医学を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 リハビリテーションに関わる障害の評価と治療について学ぶ。また、疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。

授業計画 第1回 総論① リハビリテーションの理念
第2回 総論② リハビリテーション医療の定義と歴史
第3回 総論③ リハビリテーション医療の特徴
第4回 リハビリテーションチームについて
第5回 チーム医療・多職種連携について
第6回 リハビリテーション計画① リスク管理について
第7回 リハビリテーション計画② 機能的帰結の予測について
第8回 リハビリテーション計画③ プログラムの立案について
第9回 ストレスの原因と健康管理① 社会環境とストレス
第10回 ストレスの原因と健康管理② ストレスへの対処
第11回 ライフスタイル評価と行動変容① ライフスタイルアセスメント
第12回 ライフスタイル評価と行動変容② コンプライアンス
第13回 ライフスタイル評価と行動変容③ アドヒアランス
第14回 ライフスタイル評価と行動変容④ 行動変容の段階
第15回 まとめ

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

テキスト

参考図書 配布資料
その他

講義名 運動療法学総論

講師 前田 剛伸 病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、運動療法学総論を講義する。

学年・期 1年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要な理学療法の基本的事項について学ぶ。

授業計画

第1回	運動療法の概念
第2回	疼痛の病態とメカニズム
第3回	創傷・靭帯損傷の病態とメカニズム
第4回	骨損傷の病態とメカニズム
第5回	筋力萎縮の病態とメカニズム①
第6回	筋力低下の病態とメカニズム②
第7回	筋力強化の概念
第8回	関節可動域制限の病態とメカニズム①
第9回	凹凸の法則とは
第10回	関節包内運動とは
第11回	モビライゼーションとは
第12回	ストレッチとは
第13回	運動麻痺・意識障害の病態とメカニズム
第14回	筋緊張異常・協調運動障害の病態とメカニズム
第15回	まとめ

履修上の注意 いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

テキスト 「機能障害科学入門」（神陵文庫）

参考図書 配布資料
その他

講義名	理学療法評価学		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。	
	伊藤 望美	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	理学療法評価の流れについて理解する。特に、動作観察から問題点を抽出するトップダウン過程の評価方法について理解する。疾病に関係なく理学療法士が実施するバイタルサインを把握するための検査測定技法、形態測定と関節可動域測定について理解する。		
授業計画	第1回	理学療法評価総論①（評価の目的）	（嘉戸）
	第2回	理学療法評価総論②（障害把握、障害と基本動作の関係、PTに求められる要素）	（嘉戸）
	第3回	評価過程（トップダウン、ボトムアップ）	（嘉戸）
	第4回	情報収集：基礎情報、医学的情報、環境的情報	（嘉戸）
	第5回	家屋の評価とPTのアプローチ	（嘉戸）
	第6回	問診の心得、方法、過程	（嘉戸）
	第7回	問診の体験（1）	（嘉戸）
	第8回	収集した情報をまとめ、文章化	（嘉戸）
	第9回	問診の体験（2）補完	（嘉戸）
	第10回	情報収集のレポート作成	（嘉戸）
	第11回	情報収集のレポート修正	（嘉戸）
	第12回	情報収集のレポート修正	（嘉戸）
	第13回	収集すべき情報について	（嘉戸）
	第14回	情報収集のレポート修正	（嘉戸）
	第15回	能力障害の把握と基本動作の選択	（嘉戸）
履修上の注意	実習可能な服装を用意すること。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「理学療法を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）		
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺患者に対する理学療法評価 改訂第2版」（神陵文庫）		

講義名	理学療法評価学		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。	
	伊藤 望美	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法評価学を講義する。	
学年・期	1年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	理学療法評価の流れについて理解する。特に、動作観察から問題点を抽出するトップダウン過程の評価方法について理解する。疾病に関係なく理学療法士が実施するバイタルサインを把握するための検査測定技法、形態測定と関節可動域測定について理解する。		
授業計画	第16回	収集した情報から観察する基本動作の検討	（嘉戸）
	第17回	動作観察の必要性、方法とポイント	（嘉戸）
	第18回	動作観察の文章化	（嘉戸）
	第19回	動作分析（観察内容から機能障害の把握）	（嘉戸）
	第20回	統合と解釈、問題点の抽出、目標設定	（嘉戸）
	第21回	バイタルサイン（呼吸・体温・脈拍測定）	（伊藤）
	第22回	バイタルサイン（血圧測定）	（伊藤）
	第23回	形態測定（四肢長測定）	（伊藤）
	第24回	形態測定（周径測定）	（伊藤）
	第25回	関節可動域測定の手順について	（伊藤）
	第26回	上肢の関節可動域測定①	（伊藤）
	第27回	上肢の関節可動域測定②	（伊藤）
	第28回	下肢の関節可動域測定①	（伊藤）
	第29回	下肢の関節可動域測定②	（伊藤）
	第30回	頭頸部・胸腰部の関節可動域測定	（伊藤）
履修上の注意	実習可能な服装を用意すること。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「理学療法を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）		
参考図書 その他	「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺患者に対する理学療法評価 改訂第2版」（神陵文庫）		